

平和な世界へ

川東中学校 3年 山田 成美

「熱い、痛い、助けて」

1945年8月6日、午前8時15分、一発の原子爆弾が広島に投下され、多くの人々の命を奪い、生き残った人々の人生を変えました。

私は、広島平和式典中学生派遣事業で川東中学校の代表として広島に行き、戦争の悲惨さや平和の尊さについて学んできました。訪れた平和記念資料館には被爆者の方の話が展示されていました。「我が子に『目を開けて、目を開けて』と叫ぶ母親の姿がありました。」

この言葉を見て私は、もし自分の大切な人たちが一瞬でいなくなったら、もう二度と話せなくなったら、そう考えると何も言葉が出なくなっていました。

広島原子爆弾投下、この出来事で私と同年代の子供、その家族、友達の夢や希望が一瞬にして断たれました。

また、被爆者の方の体験講話で「戦争は多くのものがなくなる」という話を聞きました。食料、言論の自由、多くの人々の命が戦争で失われてしまったのです。今でも、原子爆弾の放射線の影響で病気になり、苦しんでいる人がいます。

原子爆弾が投下されて78年経った今、ロシアのウクライナ侵攻によって戦争が続いています。紛争も多くあります。平和な世界に向けて私たちができることは何でしょうか。

「熱い、痛い、助けて」私たちは経験したことのないことですが、関係のないことではなく、忘れてはいけないことです。あの日を二度と繰り返してはいけません。戦争や争いのない平和な世界を作れるのは私たちです。行動を起こし、声を上げられるのは私たちです。平和な世界を作るために、派遣事業を通して学んだことをたくさんの人に伝えていきたいです。